

演習Ⅱ

科目ナンバリング SEM-302
必修 2単位

今野 久子

1. 授業の概要(ねらい)

人口増加が期待できない時代を迎え、大学では、「智」や「技術」のみならず学生の活動をまちづくり分野に活かす試みが多く見られるようになっていく。一方、本学八王子キャンパスが立地する多摩ニュータウンは、日本を代表する大規模開発として、超高齢化やコミュニティ再生など現在の地域課題への対応においても先進地域であり、ここで今、様々な場面に若者の力を活かすことへの期待がこれ迄以上に高まっている。この両者の係りから生まれるのは、「学生は、実社会で多くの大人に接し、他では体験できない多様な学びを得る」―「地域の各主体は、コミュニティ再生の方法を模索し蓄積する」という、いわゆるウィン・ウィンの相互関係である。

本演習は、本学が掲げる「実学」を「PBL(problem based learning)」の形で試みる立場から、学生目線での地域経営(エリアマネジメント論)を講究し、将来のまちづくりや地域貢献・NPO(的)活動に資する経験・スキルアップにも繋げることを目指して開講する。キャンパス周辺のニュータウン地域のなかで具体的な現場と係る実践的・試行的な取組みについて、これまでに構築してきた地域との関係を一層深めつつ、現場の課題・状況に即して段階的に取組み展開を図る。今後の地域づくりが着実に市民協働に向かっていくことからグループワークを行う。具体的には、日野市百草地区にある空き家の活用について、日野市都市計画課・所有者や地域住民グループ、近隣住民、自治会、近隣事業者など現場の関係者との協議・調整を尊重し、学生目線で主体的なフィールド活動を計画立案し、実践する。なお、受講者の関心領域に応じて関係者をゲストとして招聘し、或いは視察研修の実施や視察先での関係者の話を聞く機会をつくる。

2. 授業の到達目標

(1) 地域経営(エリアマネジメント論)について基本的な知識をもち、ニュータウン地域・対象とする現場の喫緊の具体的な課題を説明することができる。

(2) 興味・関心のある領域において、自主的に研究テーマ設定や研究方法を考えて、研究計画を立てることができる。

(3) 現地調査やヒアリング調査等を通じて地域・現場に受け入れてもらうための作法を身につけることができる。今年度はコロナ禍における対応方法を工夫して行動することができる。

(4) グループによる協働・協調での活動を通じて学んだことを一年間の成果報告として取りまとめることができる。

3. 成績評価の方法および基準

演習系科目のため出席は必須である。評価は、グループワークへの参加・主体的な貢献が50%、研究・活動の推進とその経過報告が25%、研究・活動の成果とその取りまとめ報告が25%の配分によって総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

以下の資料・参考書を適宜用いるほか、授業のなかで適宜紹介する。

参考文献

小林英嗣他 (2008)『地域と大学の共創まちづくり』 学芸出版社

上野淳・松本真澄 (2012)『多摩ニュータウン物語 オールドタウンと呼ばせない』 鹿島出版会

多摩ニュータウン学会編集委員会『季刊 多摩ニュータウン研究(各号)』 中央大学出版部

秋元孝夫 (2005)『ニュータウンの未来』 多摩ニュータウン・まちづくり専門家会議(pdf版無償配布)

UR都市再生機構 多摩ニュータウンホームページ

<http://www.ur-net.go.jp/syutoken/nt/outline.html>

国土交通省 エリアマネジメントに関するホームページ掲載資料(エリアマネジメント推進マニュアル等)

5. 準備学修の内容

授業時間内の実践的活動と併せて必要に応じて適宜授業時間外においても、①実践的活動のベースとなる基礎知識の習得、②地域の各関係者との関係構築に取り組むこと。

①については、多摩ニュータウンの課題、学生の地域活動の先進事例、空き家活用の事例、現代社会における住宅地区の一般的課題(例:コミュニティ再生、防災・安心安全、地域資源活用等)などのうち関心あるテーマについて資料調査等により基礎的研究を行い、空き家(みなもぐの家)の活用との関りの観点から、実践的活動の参考になる知見として取りまとめること。

②については、日野市都市計画課、所有者、近隣住民に加えて、順次、みなもぐの家に関ることが期待される有志や地域住民グループ(親子・高齢者等)、近隣事業者などとの調整・協議を行うこと。

6. その他履修上の注意事項

活動はすべてグループ単位で行い、協力して検討・実践する基本姿勢を徹底してほしい。一連の活動・研究を通じて論理性・協調性・コミュニケーション力・プレゼン力や各種PCソフトの技能等も身につくことに期待している。

7. 授業内容

【第1回】 秋学期のイントロダクション
活動スケジュールの検討(情報発信、空き家活用)

【第2回】 キャリアガイダンス

【第3回】 グループでの地域貢献活動(情報発信、空き家活用)

【第4回】 グループでの地域貢献活動(情報発信、空き家活用)

【第5回】 グループでの地域貢献活動(情報発信、空き家活用)
※情報発信①

【第6回】 グループでの地域貢献活動(情報発信、空き家活用)

【第7回】 グループでの地域貢献活動(情報発信、空き家活用)

【第8回】 グループでの地域貢献活動(情報発信、空き家活用)
※情報発信②

【第9回】 グループでの地域貢献活動(情報発信、空き家活用)

- 【第10回】 グループでの地域貢献活動(情報発信、空き家活用)
- 【第11回】 グループでの地域貢献活動(情報発信、空き家活用)
※情報発信③
- 【第12回】 グループでの地域貢献活動の成果報告取りまとめ(情報発信、空き家活用)
- 【第13回】 グループでの地域貢献活動の成果報告取りまとめ(情報発信、空き家活用)
- 【第14回】 成果発表
- 【第15回】 成果発表、次年度ゼミ生との顔合せ・引継ぎ
※一年間の総括と次年度以降への展望について、次年度の演習参加者への引継ぎを行う。
以上はあくまでも想定であり、現場の状況等を見極め柔軟に対応しつつ、段階的に取組みを進める。